

こんなにも 純粹な 職場は 他にはない。



弁護士
谷口太規

司法修習 第58期/スタッフ弁護士1期生
(法テラス在籍期間:2006年~2009年)

全力を投じる ことができた かけがえのない日々

苦勞して書き上げた主張をまとめた文章を依頼者に送る。30分と経たないうちに、依頼者からすぐさま電話が鳴る。「言いたかったことが、すべて代弁されていた。ありがとう」。受話器越しに、お互い涙を流す。依頼者にとって人生で苦しい場面を、ともに全力でぶつかり合い、全力で駆け抜ける。確かに人生においては一瞬のことなのかもしれないけれど、お互いがかかけがえのない存在になる。共鳴し、心が震え、涙し、また同時にやりがいと感ずる。これは特別なエピソードというわけではなく、スタッフ弁護士として過ごした日常です。多くの案件を担当しましたが、今でも当時の依頼者のこと、事件のことは克明に覚えています。

スタッフ弁護士として働いた4年間は、ただただ、依頼者のことだけを考え、全力を投じる日々でした。その人の人生にとって最善とは何か、そのために自分が尽くせることは何か、経営的な視点を気にすることなく、その人の人生を捉え、まっすぐに取り組む。自分だけの力で足りなければ、周りを巻きこむ。必要ならば、制度や仕組みそのものも作ってしまおう。役所

や地域包括支援センター、社会福祉協議会などと連携して、地域全体で生活を支えていく。法的解決だけにとらわれない伴走型支援は、法テラスという公的看板を持つスタッフ弁護士だからこそ、実現できたことなのかもしれない。依頼者から出発して、その人を取り巻く地域コミュニティや、社会全体を変えようとする視点は、その後のアメリカでのソーシャルワーカーとしての仕事や、現在取り組んでいる公共訴訟支援の活動へとつながっていきました。スタッフ弁護士の経験がその後の全ての活動の原点です。

余計なことを考えず集中して仕事をしたい。そんなふうに考えるんだったら、これほど適した職場はないんじゃないかな。独立した今でも、羨ましく、また戻りたいと思うことがあります。

日本司法支援センター

 法テラス

法テラスは、国が設立した公的な法人です。

スタッフ弁護士

検索

